

【教育目標 夢中になる とともに創る】



きらきら



新潟市立沼垂幼稚園
園だより
令和8年1月27日発行

沼垂幼稚園 111 年目 大切にする3つの「一」★★★「一人一人」「一緒に」「かけがえのない一年」★★★

大切な経験 ～日本の文化から～

園長 関根 秀也

1月中旬に、私が住む地域の自治会が主催する餅つきがありました。小さな子どもたちもたくさん参加していたので、「餅は何からできるか」を聞いてみました。「・・・？」となる子がいて、餅が米からできるということを初めて知る子どもが複数いました。杵が打ち下ろされる度にゴツンと音がして、米粒が粘り、餅らしくなっていく様子は印象に残る場面だったようで、大人からも子どもからも「すごいね」という声がたくさん聞えてきました。私が子どものころに、ついてできた餅で「鏡餅」を作った記憶があります（かなり曖昧ですが…）。ついてできた餅が軟らかく、少々平らな鏡餅になりましたが、自分たちがついて作った鏡餅だったので、その後も大切にしていたように思います。

では、どうしてお正月に鏡餅を飾るのでしょうか。鏡餅は、一年の初めの月「お正月」にやってくる年神様をお迎えするためのお供え物で、その年の豊作や健康を願うものと言われています。このように、伝統行事は自然とともに生きていた先人の思いがたくさん詰まったものがあります。例えば、おせち料理は、元々「御節供（おせちく）」の略で、季節の変わり目の「節」に、年神様にお供えする食べ物でした。それが現代では正月の料理を指すようになりました。また、昔は正月の三箇日（1月1日～3日）は年神様をお迎えするために、台所を騒がせてはいけないと言われていたので、お正月には火を使わない風習があり、おせち料理はその期間に食べる保存食として日持ちするものが入っていました。おせち料理の代表的なものに、昆布巻きや黒豆がありますが、全て火を通し濃い目の味付けをして数日間食べられる工夫がしてあります。昨今のおせち料理には、洋風・中華料理などもあり、内容が変化しています。このように、昔から伝わってきた季節の行事ですが、年々形だけが残り、本来の行事の意味合いが変わってきているものがあります（※鏡餅や

お節料理の由来には、諸説あるようです)。

お家の方からご協力いただいた「冬休みの生活」の様子の中にも、この時期やこの季節だからできる遊びや出来事がたくさん載っていました。これらはすべて貴重な経験となって、子どもたちの心に刻まれ、時に思い出され、次世代につながっていくことでしょう。

日本、そして、その地域でなければできない経験はたくさんあります。今後、子どもたちは様々な国々とつながり、様々な立場の人々と支え合わなければ生きていくことが難しい社会で過ごしていくことが予想されます。そのとき、日本の文化に誇りをもち、そのよさをしっかり伝えられる人に育ててほしいと願います。「あなたの国のよいところはどんなところ？」と問われたとき、自信をもって日本の文化について話せたら、世界の人たちはとても魅力を感じることでしょう。英語教育・ICTを活用した教育などが取り入れられている学校教育ですが、幼稚園では、世界に通用する人になるために、正月遊び、節分、ひな祭りなどを日々の保育に意図的に取り入れ、日本の文化に触れる機会を大切にしています。

今月の「きらきらな笑顔」

